

第33回全国育樹祭における皇太子殿下のおことば

平成21年10月4日（日）（長崎県立百花台公園）

第33回全国育樹祭が、全国各地から多くの参加者を迎え、ここ長崎県立百花台（ひやっかだい）公園において開催されることを喜ばしく思います。

長崎県は、数多くの島々と海、緑多い山々など、豊かな自然に恵まれています。中でも、ここ島原半島は、日本で最初の国立公園を始め、水と緑の織り成す優れた景観が多く残された地として知られています。この豊かな自然の恵みは、森林と海とのつながりを知る県民の皆さんの、たゆみない努力のたまものであると思います。

島原半島では、平成2年から約6年間続いた雲仙普賢岳の噴火活動に伴う火砕流や土石流により、多くの尊い命と森林が失われました。しかし、噴火活動終息の直後より、若い人たちやボランティアなど様々な人々の参加による森林の整備・保全活動が行われ、それが今日まで続けられていると伺っています。また、本年8月には、島原半島ジオパークが、新潟県の糸魚川や北海道洞爺湖有珠山のジオパークと共に、国内で初めて世界ジオパークネットワークへの加盟を認められました。これを契機に、教育や観光など幅広い分野で、人と火山や森林が共生する地域づくりが進められていくものと期待されています。

このように、被災から復興へ、そして地域の振興へと力強い歩みを続ける島原半島において本大会が開催されることは大変意義深いものであると思います。

私は、先ほど、天皇皇后両陛下がお手植えになりました檜（ひのき）の手入れを行いました。その苗は、昭和天皇御即位記念の森林（もり）で採取された種から育てられたと伺いましたが、その力強く成長している姿に感慨を覚えるとともに、今更ながら、親から子へと長年にわたり愛情を持って森林を守り育てていくことの大切さを感じました。

森林は、美しく豊かな国づくりの基礎であり、国土の保全や水源の涵養（かんよう）を始め、私たちに限りない恵みを与えてくれます。また、地球温暖化の防止など地球環境の保全に果たすその役割も、ますます大きなものとなっております。

このような中で、本日表彰を受けられる方々を始め、日ごろから各地域において国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が、更に多くの人々に支えられ、発展していくことを期待します。

終わりに、この度の大会テーマ「未来へと 夢をつないで 育てる緑」にふさわしく、森林を守り育てる活動の輪が、ここ長崎から世界へ、そして未来へ広がることを願い、私のあいさつといたします。